

親愛なる首長会議の皆さまへ

人類史上初めて南極および北極を踏破したロバート・スワン氏は、「地球にとっての最大の脅威は、誰かが救ってくれるだろうという思い込みだ」とかつて言いました。全くその通りだと思います。

シュツットガルトは、2004年に世界平和市長会議のネットワークの一員となりました。シュツットガルトには、緑の党選出の副市長を見ても分かる通り、核の無い未来の標語を町中に掲げているという誇るべき伝統があります。その実現のためには、三つの戦略があります。情報、コミュニケーション、アクションがそれです。

情報:持続性のある変化をもたらすには、市民の意識改革が鍵となります。様々なアクションが、市民会館で開催された原子力のもたらす最悪の結末についての展示をきっかけに始まりました。コミュニケーション:シュツットガルトでは、核不拡散条約の見直しに関して世界平和市長会議への代表団を送り続けています。さらに有力政治家に対して核の利用に対し有利な決断を下さないよう多くの手紙も送っています。これに対し、たとえ望んだ回答とは限らなくても、常に返答を頂いています。

アクション:シュツットガルトは、核の無い明日へ向けて具体的な歩みも進めています。シュツットガルトは、「Cities are no Targets (都市は、標的ではない)」という決議を採択し、反核と平和を訴えドイツ全国を廻る自転車ツアーに参加し、七月八日には新しく「伝統」となったドイツ平和首長会議の平和を訴える日に呼応し、核兵器の使用は国際法違反および人権法の原理原則に反することを市民に訴えました。

シュツットガルトでは、ごく最近になりさらにその取組みを進め、より広い範囲で核の利用を減らす活動を始めました。市を上げて、原子力を利用しない電力会社を立ち上げたのです。シュツットガルト市と新しく市長となった私は、危険の伴う原子力技術を段階的に廃止して行くことを強く支持します。またシュツットガルトは、固い決意でエネルギー政策の転換を促進し押し進めていきます。

仮に「地球に対する最大の脅威を誰かが救ってくれるだろうという思い込み」だとするならば、私たち市長が核の無い未来へ向けて取組み具体的行動を起こすことがさらに重要となります！私たち地域の首長としては、核に反対する法律をつくる立場にはありません。ですが、市民の健康と福祉を追求する責務があります。この責務こそが、核の廃止へ向け、私たちを駆り立てるのです！

ドイツ、シュツットガルト市長
フリッツ・クーン